

「後輩に贈る一冊」

四十住基子

1. はじめに

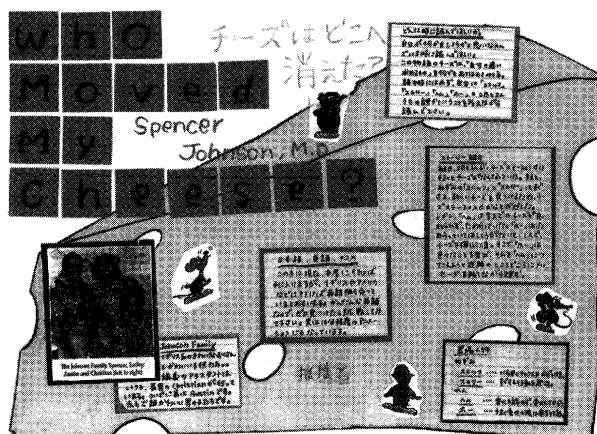
3年生では、主に「情報の創造・発信に関わる能力」を身に付けさせることに重点を置き授業を行った。その中から「後輩に贈る一冊」という単元を報告する。3年生最後に組んだ単元であり、卒業を機に、自分の読書生活を振り返り、その中から一冊を選んで、後輩（次年度入学してくる新一年生）に推薦するという内容である。そのねら生活における中学3年間の成長を知るということ、そして、自分の感動や読みとったこと、考えたことを効果的に表現するという二つである。学習の成果は一人一枚B5～B4の作品としてまとめた。

2. 授業の流れ（全3時間扱い）

導入 (0.5)	1. 先生のブックトークを聞く。(テーマ「少年成長譚」) 2. 単元全体の説明。(ねらい, 意義, 方法) 3. 作品見本を見せる。
作成 (2.5)	1. 下書き用紙に書く。→点検 (先生と対話) 2. 清書 3. 提出

*必ず書くべきもの、本のタイトル、作者(著者)名、おススメの言葉
 あとは、あらすじ、人物紹介など自由に書いてよい。

3. 生徒の作品から



<おススメの言葉>

- ・新入生のみなさん入学おめでとうございます。中学校生活はとても楽しいです。新しい友達、部活動、夢いっぱいです。でも時にはつらいことだってあります。そんな時みんな「どうして自分はこんなにつらいんだろう？」って思ってしまう。でも、自分だけじゃないんです。僕は著者大平さんの意志の強さと努力に感動しました。

つらいのは自分だけじゃない。つらくてどうしようもない時、ぜひこの本を読んで下さい。困難をのりこえる勇気とパワーを得ることができます。(『だからあなたも生き抜いて』／大平光代)

- ・新入生のみなさん、入学おめでとう。これから始まる中学生生活はとてもおもしろいものになると思います。しかし、勉強もしなければいけません。そこで、この本をおススメします。歴史を勉強しながら、楽しく笑える。とてもいい本なので読んでみよう。(『爆笑問題の日本史言論』／爆笑問題)
- ・「温故知新」は何事にでも始める上で、とても大切な事の一つだと思います。古典や昔の人の思想を知る事によって新しいことも思い浮かびます。この本には中国の古い思想が書かれています。その中には人間関係や生き方についても書かれています。この本を読めば、友達との親交や中学生生活をどのように過ごすかなど、多くの事を学べると思います。(『中国の思想』／村山孚)
- ・登場人物が、君達と同じ中学1年生だから親しみやすいのでは？先生や親など、大人に対する反乱（イタズラ？）なので、読むとスカッとした気分になれるし、自分と同じ年齢でもこんなことが出来るんだ！という発見もあるでしょう。この“ほくら”のような仲間が本当にいると、毎日が楽しいことまちがいない！中学生の間にぜひ、そんな友達を見つけて下さい。(『ほくらの七日間戦争』／宗田理)
- ・ポネットってこんな子。ズバリ最近の中学生は幼い頃のことを忘れがちなので、この本をススメます。この本は幼い子供が、亡くなった母親をさがす、子供の純粋な心をかいたものです。これを読んで、自分の幼かった純粋な心を思い出してくればいいと思います。(『ポネット』／ジャック・ドワイヨン)
- ・新入生のみなさん、ご入学おめでとう！中学校生活では楽しいことが沢山あると思いますが、つらいことも生きていく中で出てくると思います。そういう中で迷いに迷い自分がどうしようもなくなった時、この切ない話をおすすめします。

僕もこの話を読んで何か悟ったような気がして気持ちの整理ができました。正義の味方ジャン・バルジャンの信念がきっと君の心を切り開いてくれるでしょう。夜の静寂の中、一人でこの本に浸ってみてはどうでしょう。是非どうぞ！(『ああ無情』／ユゴー)

- ・新入生のみなさん。ご入学おめでとうございます。これから中学校生活が始まりますね。とてもドキドキしていると思います。この本では「一生懸命努力すれば、どんな事だってうまくいく」ということが書かれています。自信がなくなったり、弱気になった時はぜひ、この本を読んでみて下さい。(『よだかの星』／宮沢賢治)
- ・こんな本です。「なるほど！」読めば必ずこの一言が出てきます。私も何度も納得しました。この本は100の小話集です。目次にはそれぞれの見出しのようなものが書いてあるので1から読まなくても自分が興味を持ったものから読むことができます。また、すべての漢字にふりがながついているので読みやすいです。(『光に向かって』／高森顕徹)

<あるクラスの紹介図書リスト>

「中国の思想」	村山 孚	「沈まぬ太陽」	山崎豊子
「僕らの七日間戦争」	宗田 理	「怪しい探検隊シリーズ」	椎名 誠
「僕らの七日間戦争」	宗田 理	「塩狩峠」	三浦綾子
「小説十八史略」	陳 舜臣	「井上トロの生活と意見」	宮島太朗&阿部美香
「最後の一葉」	O・ヘンリー	「ハリーポッターシリーズ」	ローリング
「きまぐれロボット」	星 新一	「大空の殺人」	クリスティ
「バトル・ロワイヤル」	高見広春	「やまなし・よだかの星」	宮沢賢治
「車輪の下」	H・ヘッセ	「アルジャーノンに花束を」	キース
「もものかんづめ」	さくらももこ	「はてしない物語」	エンデ
「若草物語」	オルコット	「ブギーポップ VS イマジネーター」	上遠野浩平
「若草物語」	オルコット	「クレヨン王国新十二か月の旅」	福永令三
「だからあなたも生きぬいて」	大平光代	「スリーピー・ホロウ」	ルランギス
「ガセネッタ&シモネッタ」	米原万里	「五体不満足」	乙武洋匡
「いちご同盟」	三田誠広	「三国志」	吉川英治
「いちご同盟」	三田誠広	「言葉図鑑2」	五味太郎
「スタンド・バイ・ミー」	キング	「ジム・ボタンの冒険」	エンデ
「グレイがまってるから」	いせひでこ	「爆笑問題の日本史原論」	爆笑問題
「ひとつ屋根の下2」	野島伸司	「チーズはどこへ消えた」	ジョンソン

4. おわりに

読書好きな生徒は、どの本にするか迷い、少々苦手な生徒は適当なものを探すために、再度、本を読み返すことが必要であったが、いずれもその生徒らしい作品に仕上がった。推薦する相手（次回入学してくる1年生）を意識し、自分の感動を伝えるわけだが、ただ、あらすじや感想だけでなく、新入生の立場に立って、なぜこの本がおススメなのか、自分の体験を踏まえたり、こんな時に読んで欲しいということを書いて、読みたくなるよう考えていた。おススメの言葉には、新入生の中学校生活への希望や期待を汲みながらも、実際は勉強や部活など忙しいのだ、親や先生も色々言ってきてうるさいのだ、友達づきあいも時には悩んだりするのだ、という実感が見え隠れしている。しかし、私たちもこれらの本から勇気を与えられたから、あなたたちもしっかりと悩みを乗り越えて充実した生活を送ってほしいというメッセージがいずれにも込められていた。

今回は時間の関係上できなかったが、売り込むための言葉の工夫について、さらにこだわったり、お互いの作品について意見を交換するという活動展開も考えられる。生徒の作品は、次年度入学した一年生の教室に掲示した。